



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「聖地旅行」その②

十月一日の朝、出発の二時間半前には皆が、LAXのUSエアウェイズのカウンターの前に集まるように取り決めていた。だが、実は僕が一番遅かった。もう一行のチェックインが始まっていて、溝口俊治先生や田辺豊先生が見送りに来ていた。二人とも南加教会連合百周年記念事業の責任者であり、その一環である今回の聖地旅行の企画者だ。僕のチェックインが終わって、セーフティ・チェックのために一堂が並んでいた時だった。先頭近くにいたS姉が不安げな様子で列を外れて引き返してくるではないか。「どうしましたか」と尋ねてみると、搭乗券の名前が違うという。そこで一緒にカウンターの引き返してそれを見せると、すぐに再発行してくれた。今回の旅の最初のトラブルであった。

搭乗手続きが始まったので、搭乗直前に皆で手をつないで輪になり、初めての祈りを捧げた。これからの十日間、僕を含めて多くが初めての聖地旅行である。しかも最高齢八十六歳のO姉を筆頭に、ほとんどが僕よりも年長者である。しかも日程は多くの訪問先でびっしり埋まっている。しかも毎晩のように様々な集いがあり、日々が体力との闘いである。今後のことを思うと、ただひとえに旅の安全を祈らざるを得なかったのである。一方、この旅のために多くの人たちの祈りが絶え間なく捧げられているのだと思うと、たとえ多くの困難があるとしても、主の豊かな守りと助けがあるに違いないと思わされたのである。

乗り継ぎのフライデルフィアまでは四時間半、それから二時間待ってテルアビブのベングリオン空港までは十一時間半という長旅だが、参加者それぞれの持つ聖地イスラエルへのあこがれと期待と不安と共に、一同機上の人となった。

テルアビブに着いたのは午後三時を回っていた。それから世界で一番厳しいという税関を通らねばならない。ところが日本人団体旅行ということもあって、そこはフリーパスであった。僕は気抜けしてしまったのだが、帰りの税関で一行は二時間もかかって所持品をチェックさせられることになり、果たして搭乗時間間に合うかどうか懸念されるほどの厳しさを味わうことになる。

最初の夜を迎える地中海沿岸の都市ハイファまでは北へバスで二時間半だ。物珍しさも手伝って窓外に釘付けである。この地に主イエスは生まれ育ち、十字架につき、そして死からよみがえったのだ。その地に足を踏み入れたのだと思うと、「主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいっつくしみはとこしえに絶えることがない」(詩篇百三十六・1)という賛美が自ずと湧き上がってくる(続く)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

